

第1回SGH連絡協議会  
第一部 E分科会  
2018年6月29日(金)



---

徳島県立城東高等学校

---

# SGHの取組と成果

四国徳島発・人類の健康と環境に貢献するグローバルリーダーの在り方について

申請校

徳島県立城東高等学校



研究テーマ

「四国徳島発・グローバル企業の創造戦略について」

仮説

グローバル化とローカリゼーションを兼ね備えた「グローカリゼーション」の活動にグローバルリーダーの資質を見出せる。

考察

- 地方に拠点を置く企業のグローバル化に取り組む意図や目的、戦略
- グローバルブランドの開発・研究過程
- グローバル化が企業や世界に与えた社会的・経済的・政治的影響
- 企業のCSR活動(社会問題・環境問題など被財務的課題への取組)の実態と方向性

教育課程の基準の特例を活用した学び

<1年次>

◆公民科「21世紀を生きる」(1単位)

- ・グローバル社会における社会、経済、政治の動向
- ・経済における相互依存関係の深まり
- ・グローバル社会における我が国の果たすべき役割と日本人に求められる生き方

◆外国語科「Current English」(1単位)

- ・英語でのディスカッション能力育成
- ・他者へのインタビュー技法習得

◆保健体育科「Global Health」(1単位)

- ・世界の人々の健康と環境についての学習

◆総合的な学習の時間(1単位)

- ・地元企業のグローバル展開の取組状況について実地研究

<2・3年次>

◆学校設定教科「課題研究:グローバルリーダー論」(3単位)

研究成果を国内外で発信!

外部連携の取組

大学連携

大阪大学・徳島大学(国際化を進める大学)

- 「国際政治」「国際経済」などの専門性の高い講義
- 「グローバル化と地域社会への影響」出張講義、MOOCs受講

企業連携

大塚グループ・日亜化学工業(徳島発祥の企業)

- 国内の海外営業部門・商品開発部門でのインターンシップ
- 外国人従業員を講師に招いた授業
- 海外勤務経験者を講師に招いた授業
- 海外営業所での海外インターンシップ

省庁・国際機関連携

- 文部科学省、外務省など各省庁の国際貢献の取組調査
- 公益財団法人日本WHO協会などの国際機関の取組調査

持続可能な社会の発展に貢献するグローバルリーダーに必要な態度・素養の習得



# I スーパーグローバルプログラム

G-Skill 研究班

## ■ 四国徳島発・グローバル企業の創造戦略について

◎国際協調・国際貢献に必要な国際的素養を習得する

◎国際課題を探究する態度やコミュニケーション能力と  
課題解決能力を育成する

◎自己を相対化することで多様な価値観を育成する

◎論文作成能力、プレゼンテーション能力を育成する

→ **スーパーグローバルプログラム**

# I SGプログラム → II 課題研究 → 発信

① スーパーグローバル講座  
*academic*

② スーパーグローバル講座  
*professional*

③ グローバルリーダー育成メソッドI  
*In school*

④ グローバルリーダー育成メソッドII  
*home*

⑤ グローバルリーダー育成メソッドIII  
*abroad*

インプット

国際的素養・知識の習得、国際問題への  
関心向上、発信の仕方などを学習

アウトプット

2年 研究活動  
3年 研究を英文化

アウトプット

全国フォーラム  
SGH甲子園

課題研究

発信

- ・課題研究発表会  
(2年) 日本語
- ・SGH発表会  
(3年) 英語
- ・生徒論文  
「叡智の扉」の発行
- ・コンクール発表  
など

課題解決能力や  
プレゼンテーション能力など  
グローバルリーダーに必要な  
資質・能力の養成

# ① スーパーグローバル講座 *academic*

[目的] 高大連携プログラムの開発

[仮説] 大学との連携により、専門性の高い指導や高大連携の接続改善を図ることができるか。

[期待される効果] グローバル化への理解、社会問題や国際問題への関心

[自己評価] 大阪大学大学院国際公共政策研究科と徳島県教委が覚書を交わしての連携

○主に政治、経済、法学関連

○講演会、座談会や大学ゼミ訪問により、社会問題や国際課題に関心を深めている。

# ① スーパーグローバル講座 *academic*

[目的] 高大連携プログラムの開発

[期待される効果] 国際感覚や異文化理解を深める  
グローバルリーダーに必要な態度や素養を習得

[自己評価] 徳島大学国際センターとの連携

○主に課題研究の指導、国際交流など

○専門性の高い出張講義・実践指導が効果的に行われた。

○徳島サマースクールなどで留学生と交流したり  
医学部体験実習では留学生から英語で指導を受けたり、国際感覚や異文化理解を深めた。



# ① スーパーグローバル講座 *academic*

大阪大学教授 講演・  
生徒とのパネルディスカッション



大阪大学国際公共政策学科訪問



徳島大学講師による課題研究指導



徳島大学医学部体験学習

# ① スーパーグローバル講座 *academic*

[目的] 高大連携プログラムの開発

## [検証]目標設定シート

2-d 課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)

H25(指定前)	H26	H27	H28	H29
6人	51人	116人	138人	74人

○徳島大学・大阪大学をはじめとした高大連携の強化

○県外大学等から専門性の高い出張講義の実践



## ② スーパーグローバル講座 *professional*

[目的] 企業との連携プログラムの開発

[仮説] 企業との連携により、実社会とのかかわりによる社会貢献の意義や実感を芽生えさせることができるか。

[期待される効果] 社会貢献活動（CSR活動）の考え方や意義を身に付ける。

[自己評価] 大塚製薬との連携

- 講演により、CSR活動の考え方や内容を学んだ。
- 海外研修では、現地高校生と共に貢献活動を行うなど、その意義を身に付けることができた。

## ② スーパーグローバル講座 *professional*

[目的] 企業との連携プログラムの開発

[期待される効果] 国際社会で必要とされる能力や今高校生としてすべきことなどを理解する。

[自己評価] **日亜化学工業**との連携

○海外勤務経験者による講演により、国際社会で活躍するために必要とされている能力はHard Skill(学習による知識)とSoft Skill(経験に基づく個性)を合わせ持つこと、「アイデンティティ」と「人種・国家・宗教の尊重」が大切であることを学んだ。

○**企業研修・国際機関訪問** 1学年320名が9コース、県外17の企業等を訪問しCSR活動等を研修した。

## ② スーパーグローバル講座 *professional*

[目的] 企業との連携プログラムの開発



大塚製薬株式会社  
東京本社総務部長 講演

日亜化学工業  
海外勤務者の体験談

## ② スーパーグローバル講座 *professional*

[目的] 企業との連携プログラムの開発

### [検証]目標設定シート

2-e 課題研究に関して企業や国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)

H25(指定前)	H26	H27	H28	H29
4人	41人	50人	42人	51人

○大塚製薬・日亜化学工業とのネットワークの強化

○インドネシア研修では、大塚製薬の海外拠点でのインターンシップ・CSR活動を支援

### ③ グローバルリーダー育成メソッド I *in school*

#### [目的] 教育課程の編成 改善・開発

- SGH独自の学校設定科目での言語活動の充実
  - a)「21世紀を生きる」公民科1年<人文社会コース>
  - b)「Current English」外国語科1年<人文社会コース>
  - c)「Global Health」保健体育科1年<全コース>
  - d)「クエスト」総合的な学習の時間 全学年<全コース>
  - e)「グローバルリーダー論Ⅰ」2年<人文社会コース>
  - f)「グローバルリーダー論Ⅱ」3年<人文社会コース>
- 国際課題を探究する上で不可欠な英語運用能力の育成
  - a)TOEIC全員受検,英検などの外部検定試験の実施
  - b)CAN-DOリストに基づいたパフォーマンステストの実施
  - c)Essay Contestの実施
  - d)国際交流を通じた英語コミュニケーションの実践

### ③ グローバルリーダー育成メソッド I *in school*

#### [目的] 教育課程の編成 改善・開発

学校設定科目及び教育課程の特例を適用した授業

コース	1年(単位数)	2年(単位数)	3年(単位数)
人文社会コース (1クラス)	21世紀を生きる(1) Current English(1) Global Health(1) クエスト(1)	グローバル リーダー論 I (2) 情報(1)	グローバル リーダー論 II (1)
文理コース (6クラス)	地学基礎(2) Global Health(1) クエスト(1)	情報(2) クエスト(1)	クエスト(1)
数理コース (1クラス)	物理基礎(2) Global Health(1) クエスト(1)	情報(2) クエスト(1)	クエスト(1)

○1年「21世紀を生きる」「Current English」は「理科」を2単位減じて実施

○2年「グローバルリーダー論 I」は「情報」1単位と「クエスト」で実施

○3年「グローバルリーダー論 II」は「クエスト」で実施



### ③ グローバルリーダー育成メソッド I *in school*

#### [目的] 教育課程の編成 改善・開発

[仮説]SGH課題研究を実施するために学校が設定した教科科目によって、現代社会に対する関心と深い教養、論理的思考力、批判的思考力、コミュニケーション能力、問題解決能力、行動力等を育成できるか。

[目的] SGプログラム設定による「総合的な学習の時間(クエスト)」の改善・開発。学校設定科目での言語活動の充実。グローバルリーダーに必要な英語運用能力の育成。

[期待される効果] 国際的素養や知識の習得と国際問題への関心が向上。課題研究を行うための思考力、コミュニケーション能力、問題解決能力やプレゼンテーション能力を身に付け、英語運用能力も向上。

### ③ グローバルリーダー育成メソッド I *in school*

[目的] 教育課程の編成 1学年の取組

[自己評価] 21世紀を生きる (公民科)

○ニュース教材から時事問題を学び、21世紀の日本と世界を考える。感想や問題点を各自でまとめて発表、意見交換

○「難民問題」ポスターセッション

講演「不寛容時代の民主主義」

講師 大阪大学大学院准教授 中内 政貴 氏

○講演後の座談会

「紛争解決に軍事力はどのような役割を果たすのか」

○知識のみならず、自ら課題を見いだし協力して解決する力を育成し、21世紀を生きる公民としての資質を磨いた。 16

### ③ グローバルリーダー育成メソッド I *in school*

[目的] 教育課程の編成 1学年の取組

[自己評価] **グローバルヘルス** (保健体育科)

GH講座 講演「アジアの人々の飲み水と健康」  
講師 徳島文理大学薬学部教授 姫野 誠一郎 氏

#### ○**ポスター発表**

グローバルな健康問題について, 調べ学習・発表

GH講座 講演「地域の所得格差は健康を損なうか」  
講師 徳島大学総合科学部教授 豊田 哲也 氏

○「社会生活と健康」に重点を置き, 世界に人々の「健康」と「環境」の諸問題を学習し, **ポスター発表**を実施した。

○企業研修ではWHO神戸センターを訪問した。

### ③ グローバルリーダー育成メソッド I *in school*

[目的] 教育課程の編成 1学年の取組

[自己評価] **クエスト** (総合的な学習の時間)

○講演や国際交流を通じて、国際的素養・知識の習得、国際問題への関心向上など、課題研究のベース作りを行った。

4～5月 自己を知る(シンキングツールの活用)

6～7月 社会を知る①(SG講座)

8～9月 社会を知る②<**企業研修**>

10～11月 社会を知る③(各種講演)

12～1月 将来を考える①<**職業ガイダンス**>

2～3月 将来を考える②(課題研究に向けて)

### ③ グローバルリーダー育成メソッド I *in school*

[目的] 教育課程の編成 1学年の取組

[自己評価] **クエスト**

○グローバル化について考える～KJ法を使って～

SG講座 *academic*

講演「グローバル化する社会で求められる力とは」

講師 大阪大学大学院教授 松繁 寿和 氏

○グローバル化する社会で求められる力  
～フィッシュボーンを使って～

○事前事後指導では**シンキングツール**を用いて協働的学習を行い、論理的思考力を深め、国際的素養の育成を充実させることができた。

### ③ グローバルリーダー育成メソッド I *in school*

[目的] 教育課程の編成 1学年の取組

[自己評価] クエスト <企業研修> (9月)

SG講座 *professional*

講演「大塚製薬のグローバル化」

講師 大塚製薬東京本社総務部長 浜本 光生 氏

○企業の社会的役割について考える  
～K-W-Lチャートを使って～

SG講座 *professional*

講演「大塚グループのCSR活動について」

講師 大塚ホールディングス総務部課長 梅津 芽生 氏

○県外17の企業・国際機関を9コースに分かれて研修し、  
社会貢献等について学んだ。



### ③ グローバルリーダー育成メソッド I *in school*

[目的] 教育課程の編成 1学年の取組

[自己評価] クエスト <職業ガイダンス> (1月)

事前学習① 研究内容の共有

事前学習② 講師の先生について知る

事前学習③ 調査内容の共有・質問内容の精査

SG講座 *professional*

講演「日亜化学工業 海外勤務経験を聞く」

事前学習④ 冬休みの課題提出・係分担

○12分野22名の講師先生より、経験に基づく講話を聞き、社会で働く意義や心構えを学んだ。

### ③ グローバルリーダー育成メソッド I *in school*



ポスター発表「グローバルヘルス」



企業研修 WHO神戸センター



グローバル化について考える  
～KJ法を使って～「クエスト」



職業ガイダンス 福祉・健康

### ③ グローバルリーダー育成メソッド I *in school*

[目的] 教育課程の編成 2学年の取組

#### [自己評価] グローバルリーダー論 I

○国際的な社会問題に取り組む意欲・関心を深めるとともに、日本・徳島の伝統や文化について知り、英語でまとめ、発表する能力を身に付けた。

- ①「日本・徳島を紹介しよう」
- ②「英語でプレゼンテーションをしよう」
- ③「英語でディベートをしよう」
- ④「英語で論文を書こう」

○ディベートは、役割がはっきりして取り組みやすく、英語による発信力を高めるのには有効であった。

### ③ グローバルリーダー育成メソッド I *in school*

[目的] 教育課程の編成 3学年の取組

#### [自己評価] グローバルリーダー論 II

○2学年の「課題研究」をさらに深化させ、英語論文を作成。「SGH発表会」(7月)において英語で発表し、質疑応答も英語で行うことができた。

○毎時間班ごとにALTの直接指導を受けることにより、生徒にとってライティングのみならず、スピーキングのよい機会となった。プレゼンテーションの態度や質疑応答のスキル、改めて論理的な構成力や日本語の意味合いを英語で伝える力を身に付けた。

### ③ グローバルリーダー育成メソッド I *in school*

[目的] 教育課程の編成 3学年の取組

[自己評価] **クエスト**

○進路を見据えた「テーマ学習」を行い、現代社会に対する関心と深い教養を身に付け、協働的学習を通して、批判的思考力、コミュニケーション能力や自己表現力を身に付けた。

4～5月 志望理由書について

5～9月 テーマ別学習①(小論文・ディスカッション)

10～12月 テーマ別学習②(「現代を知る」ワーク演習)

### ③ グローバルリーダー育成メソッド I *in school*

#### [目的] 教育課程の編成 改善・開発

- SGH独自の学校設定科目での言語活動の充実
  - a)「21世紀を生きる」公民科1年<人文社会コース>
  - b)「Current English」外国語科1年<人文社会コース>
  - c)「Global Health」保健体育科1年<全コース>
  - d)「クエスト」総合的な学習の時間 全学年<全コース>
  - e)「グローバルリーダー論Ⅰ」2年<人文社会コース>
  - f)「グローバルリーダー論Ⅱ」3年<人文社会コース>
- 国際課題を探究する上で不可欠な英語運用能力の育成
  - a)TOEIC全員受検,英検などの外部検定試験の実施
  - b)CAN-DOリストに基づいたパフォーマンステストの実施
  - c)Essay Contestの実施
  - d)国際交流を通じた英語コミュニケーションの実践



### ③ グローバルリーダー育成メソッド I *in school*

[目的] 教育課程の編成 英語運用能力の育成

#### [検証]目標設定シート

#### 1-e 卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合

	H26	H27	H28	H29
全 体	18%	28%	36%	49%
人文社会コース	50%	49%	75%	71%
人文社会以外	14%	25%	25%	46%

○SGH指定を受けて以降、全体が10%ずつ増加。

○SGH対象クラス的人文社会コースは高い取得率を維持し、全体の取得率に波及している。

## ④ グローバルリーダー育成メソッドⅡ *home*

[目的] 国際機関との連携プログラムの開発

[仮説] 国際機関との連携により、日本の世界における社会貢献の意義や実感を芽生えさせることができるか。また、将来留学したい又は国際的に活躍したいといった自らの将来ビジョンを明確化し、自律的なキャリアデザインを促すことができるか。

[期待される効果] 世界の現状や日本の役割を理解する。グローバルリーダーとしての使命感、多様な価値感を学び、グローバルな視点で物事を捉えて発現する能力を培う。

## ④ グローバルリーダー育成メソッドⅡ *home*

[目的] 国際機関との連携プログラムの開発

### [検証]目標設定シート

1-c 将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合

	H25	H26	H27	H28	H29
SGH対象生徒		49%	53%	50%	73%
対象生徒以外	40%	36%	51%	46%	—

○H29全校生徒73%は、昨年比で27%増加。

○グローバルリーダーとして活躍するために、多様な考え方を学び、世界における日本の役割を理解した。確かなキャリアデザインを世界に広げ、グローバルな視点で捉えることができるようになった。

## ④ グローバルリーダー育成メソッドⅡ *home*



FAO(国際連合食糧農業機関)



文部科学省UNESCO



企業研修 JICA関西



パリUNESCO本部

## ⑤ グローバルリーダー育成メソッドⅢ *abroad*

**[目的]** 海外研修等のプログラムの開発

**[仮説]** 英語等も含めたグループワーク、ディスカッション、論文作成、プレゼンテーション等、またフィールドワークや成果発表のための海外研修等が、課題研究を実施するための効果的な取組となっているか。

**[期待される効果]** 単なる異文化交流ではなく、海外研修の取組が課題研究のテーマと直結し、自分で考え、自ら行動する積極的な活動に取り組む生徒を育成する。



## ⑤ グローバルリーダー育成メソッドⅢ *abroad*

### [目的] 海外研修等のプログラムの開発

#### [自己評価]

○フランス姉妹校での「環境問題」のディスカッション、パリ政治学院でのグループワークやル・アーヴル市役所での取材活動、大塚製薬の海外拠点インドネシアでのインターンシップやCSR活動は「課題研究」につながっている。

○海外研修の生徒募集の選考課題に「課題研究のテーマ」や「英語によるプレゼンテーション」等を課すことにより、課題研究の情報収集のため、フランス生徒とメールでやりとりしたり、インドネシアの環境改善プロジェクトを現地の高校生と協力して提案したり、海外研修等の取組が研究内容に結びつき、自分で考え行動する生徒の育成に生かされた。

# ⑤ グローバルリーダー育成メソッドⅢ *abroad*



環境問題討論



ル・アーヴル市庁舎研修



日本の紹介 百人一首



禅ガーデン作成



# ⑤ グローバルリーダー育成メソッドⅢ *abroad*



クジャン工場研修



寺子屋で小学生へ授業



高校訪問・文化交流



ASEAN日本政府代表部 訪問



## Ⅱ 課題研究 ① クエスト 2学年の取組

- 自分たちで自由に選んだテーマについて、1年間をかけて研究を行う
- 自然科学，人文科学，社会科学，教育・福祉，などの8グループに分かれ，その中で4～6人の班をつくる
- 班ごとに課題を設定して，研究をおこなう
- 大学の先生による課題研究の**講演・指導**  
「課題研究とは・テーマの設定」「研究の進め方・情報リテラシー」
- 研究成果は発表資料にまとめ，グループ別発表会や課題研究発表会で発表する
- 研究紀要『叡智の扉』をつくる

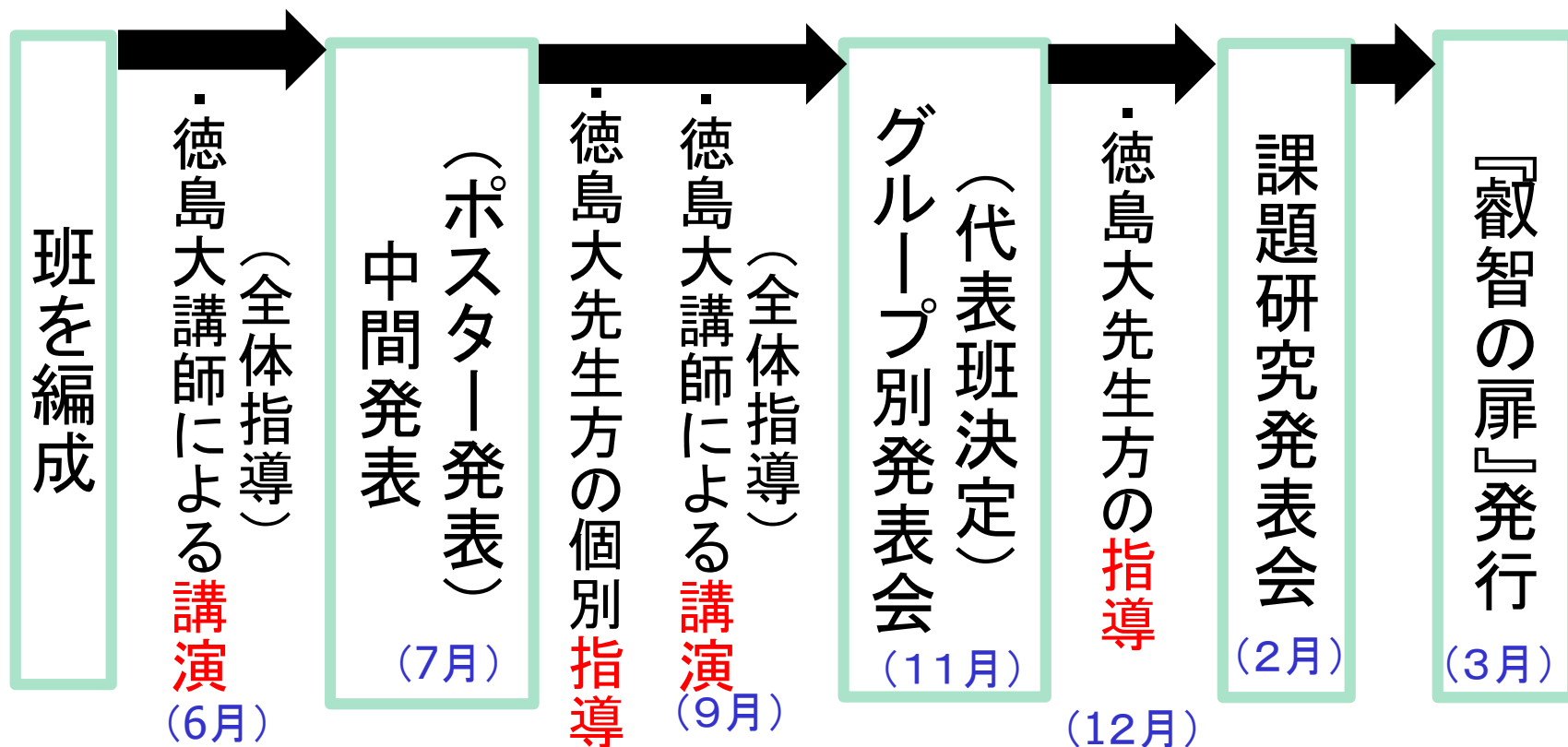
## Ⅱ 課題研究 ② 分野別グループ一覧

グループ	学部・学科
自然科学	数学・物理学・化学・地球科学 生物学・農学・農芸化学・林水産学・獣医学・畜産学
工学	機械工・自動車工・船舶工・航空工・電気工・電子工・情報工・光工・ 資源エネルギー工・建築工・土木工・環境工化学工・材料工・生物工
医療	医学・歯学・薬学・看護・介護・保健・衛生・理学療法・作業療法・ 臨床検査・放射線
人文科学	日本文・外国文・外国語・言語学・文化・教養・歴史学・地理学・ 考古学・文化財学・哲学・倫理学・宗教学・人間科学
社会科学	社会学・国際関係学・経済学・経営学・商学・経営情報学・法律学・ 政治学・政策学
教育・福祉	教育学・教員養成・児童・保育・健康学・スポーツ学・社会体育学・ 武道学・社会福祉学・介護学・保健学
芸術	音楽・美術・デザイン・写真・映像・書道・演劇
生活科学	家政学・食物学・栄養学・生活科学・被服学・住居学

国際グループ 外国文学・外国語・国際関係学・インドネシア研修・フランス研修

## Ⅱ 課題研究 ③ 大学との連携強化

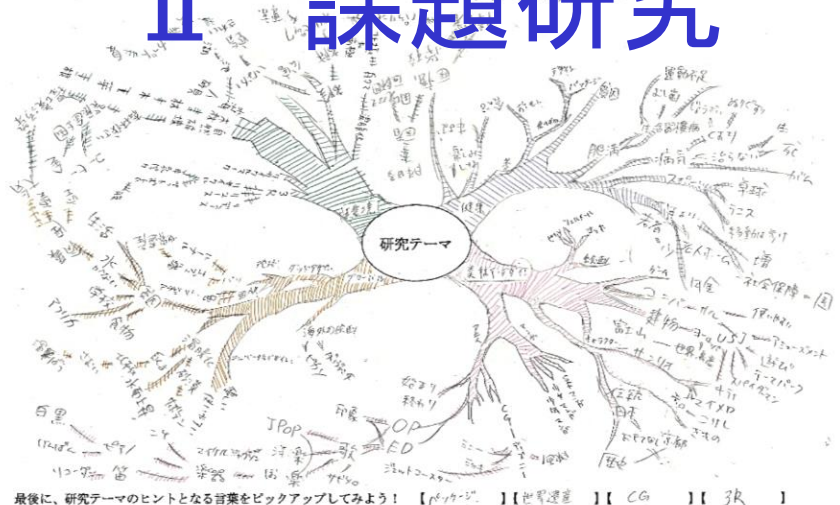
○大学の先生による課題研究の講演・指導  
「課題研究とは・テーマの設定」「研究の進め方・情報リテラシー」





## Ⅱ 課題研究

④ 課題研究テーマに向けて「キーワードマップ」を作成し、「キーワードマップ」で考えること  
研究グループ（ ） 班員（ ）



# 課題研究 を深化



マインドマップを使ったテーマ決め



徳島大学講師陣による個別指導



海外研修の課題研究指導

## Ⅱ 課題研究

### [成果]①SGH課題研究発表会

平成29年2月8日実施

### 研究発表

- 振動力発電は世界を揺るがす！？
- IoT技術で糖尿病を予防できるか。
- あなたの疲労は回復できてる？
- 内服薬は今よりも飲みやすくなるか～おくすり飲めマスターへの道～
- ちょっと待った！英語教育～小学校に英語は必要なの？～
- It's Show Time！ in 発展途上国
- 日本は外国人労働者を受け入れるべきか？  
～経済・文化的側面から考える～
- 徳島のええとこPR！
- AIが先生になる！？
- 世界に羽ばたけCHILDREN！

### 海外交流体験発表

- Let's Be Global Leaders

## Ⅱ 課題研究

### [成果]②SGH発表会

平成29年7月22日実施

#### ■研究発表

「Should Japan Accept Foreign Workers?」[英語]

「Exposing the World's Cultures at an Early Age」[英語]

「Can AI Be a Teacher?」[英語]

「It's Show Time! Finding a Wayout from a Developing Country through the Show Business」[英語]

(フランス研修・インドネシア研修報告)[英語]

#### ご案内

平成30年7月21日(土)

開会12時45分

会場 とくぎんトモニプラザ

御来場いただき、御指導御鞭撻のほど  
よろしく願いいたします。





## Ⅱ 課題研究

### [目的] 課題研究と評価の開発

[仮説] 研究の課題や研究の狙いに対応した、生徒の変容が見られたかどうか。

[期待される効果] 「四国徳島発・グローバル企業の創造戦略について」を研究テーマに、グローバル企業や大学と連携し、自分たちが考える「グローバル戦略」「グローバルブランド」「CSR活動」やグローバル化から予測する今後の世界の潮流等について、人類の健康増進と環境保全の観点からも考察、発信していくための「課題研究」を行うことにより、持続可能な社会の発展に貢献するグローバルリーダーに必要な態度や素養を習得する。

## Ⅱ 課題研究

### [検証] 課題研究のテーマの分析

平成29年度「叡智の扉」より

- ・サツマイモはチャドを救うのか
- ・AI農業を駆使してインドネシアを豊かにできるか
- ・漢方薬はこれから世界で広く使用されるか
- ・地球温暖化による健康被害 — 私たちがとるべき対策は—
- ・現代社会に十字軍は起こりえるか
- ・東京オリンピックで徳島の藍産業を活性化できるか
- ・日本の英語教育は正しいのか—中国の英語教育と比較して—
- ・そば米食べてる？ —そば米を広めることはできるのか—
- ・外国人への旅のBESTプラン in 徳島
- ・環境改善プロジェクト IN INDONESIA—現地の高校生と共に—
- ・働き方改革！～日本はJAPONになれるのか～

○グローバルなテーマを扱う班が増加

# Ⅱ 課題研究

## [検証] ルーブリック評価 「課題研究評価基準」

平成29年度「SGH課題研究」評価基準

段 階	番号	項 目	不十分な状態(1)	やや不十分な状態(2)	やや満足な状態(3)	満足な状態(4)
課題設定	1	研究テーマ	グローバルな視野が不十分である。	グローバルな視野がやや不十分である。	グローバルな視野を意識している。	グローバルな視野を十分意識している。
	2	研究目的 (動機)	明確な課題意識が持てていない。	明確な課題意識をしっかりと持っている。	課題意識が明確で、独自の着眼点を持っている。	課題意識が明確で、独自の深みのある研究目的である。
	3	問い(論題)の 立て方	明確な問い(論題)が立てられていない。	明確な問い(論題)が立てられ、背景や理由が述べられている。	興味深く調べられる問い(論題)が立てられ、背景や理由が的確に述べられている。	興味深く調べられる問い(論題)が立てられ、背景や理由が将来につながるものや社会の役に立つものである。
	4	仮説の設定	問いに対する仮説が立てられていない。	仮説はあるが問いに対応していない。	問いに対応した仮説が立てられている。	十分に考えられた仮説が立てられている。
論文作成	5	資料収集	インターネット資料のみを活用している。	論文・書籍を活用している。	複数の論文・書籍を活用している。	複数の参考文献のほか、アンケートやインタビュー等を加えている。
	6	論文の質 (論理展開)	論理的な展開ができていない。	論理的な展開がやや不十分さが残る。	概ね論理的な展開ができてい	極めて論理的な展開と文章構成ができてい
	7	論文の質 (社会貢献度)	研究の価値(社会貢献度)が十分に見いだせない。	ある程度、研究の価値(社会貢献度)を感じることができる。	価値ある研究だと感じる。	自らの提案があり、極めて価値ある研究だと感じる。
プレゼンテーション	8	説明する力 (わかりやすさ)	理解しやすい説明ではなかった。	あまり理解しやすい説明ではなかった。	概ね理解しやすい説明であった。	極めて理解しやすい説明であった。
	9	説明する力 (話し方)	原稿を読み上げる程度である。	原稿を見ずに説明することができる。	原稿を見ず、聴衆に語りかけるようにできる。	原稿を見ず、聴衆を巻き込むように語ることができる。
	10	技術 (お作りの効果)	文字の色や大きさに工夫がなく、図や表などを用いていない。	文字の色や大きさ、図や表などの工夫があるが、情報量が少な	複数の図や表などがバランスよく用いられ、情報量が適度である。	複数の図や表などがバランスよく効果的に用いられ、情報量がわかりやすく精査されている。

# Ⅱ 課題研究

## [検証] ルーブリック評価

課題研究の11月時点と2月時点の生徒の自己評価で「4満足  
いく状態」・「3やや満足のいく状態」を選択した割合

平成29年度	段階	課題設定				論文作成			プレゼンテーション		
実施時期	項目 対象	研究テーマ (グローバルな視野)	研究目的 (動機)	問い(論 題)の立て 方	仮説の設 定	資料収集 (書籍・アン ケート等)	論文の質 (論理展 開)	論文の質 (社会貢献 度)	説明する力 (わかりや すさ)	説明する力 (話し方)	技術 (スライドの 効果)
(A) 11月時点	2学年	68.0%	65.6%	68.4%	67.4%	71.8%	68.0%	71.8%	71.8%	30.2%	76.8%
	人文社会 コース	86.1%	77.8%	72.2%	83.3%	77.8%	75.0%	80.6%	83.3%	30.6%	77.8%
(B) 2月時点	2学年 (昨年)	68.5% (66.9%)	68.8% (65.5%)	69.1% (48.9%)	77.7% (71.5%)	83.4% (64.1%)	74.2% (69.7%)	76.1% (71.1%)	77.7% (73.2%)	39.5% (35.2%)	84.1% (36.3%)
	人文社会 (昨年)	83.8% (74.3%)	86.5% (80.0%)	78.4% (45.7%)	78.4% (82.9%)	81.1% (74.3%)	70.3% (74.3%)	86.5% (68.6%)	86.5% (77.1%)	51.4% (37.1%)	91.9% (45.7%)
(B)-(A) 11月から 2月の変化	2学年	+0.5%	+3.2%	+0.7%	+10.3%	+11.6%	+6.2%	+4.3%	+5.9%	+9.3%	+7.3%
	人文社会 コース	-2.3%	+8.7%	+6.2%	-4.9%	+3.3%	-4.7%	+5.9%	+3.2%	+20.8%	+14.1%



## Ⅱ 課題研究

---

### [自己評価] ルーブリック評価

○生徒にも指導する教員にも到達点を示すことから、研究のテーマがグローバル化し、原稿を見ずに聴衆を巻き込むように発表ができる班・生徒が増えた。

○参考文献で根拠の裏付けを行い、新たな仮説を検証できる「論理的思考力」を身に付けた。

○**人文社会コース**の生徒は、6項目で80%以上の評価で、「課題解決能力」や「プレゼンテーション力」等を身に付けた。

# Ⅲ SGHの主な成果

## 1年生 インput

○講演や国際交流を通じて、国際的素養・知識の習得、国際問題への関心向上など、課題研究のベース作りをする。

## 2年生 アutput(課題研究・日本語)

○課題研究として1年間研究活動を行う。  
○SGH課題研究発表会で発表。

## 3年生 アutput(課題研究・英語)

○課題研究を英文化、SGH発表会で発表。  
○テーマ学習を班別活動・小論文作成。

フランス研修

インドネシア研修

# Ⅲ SGHの主な成果

## ① SGプログラムによる課題研究の深化

▼サン・ジョセフ校生とのディベート



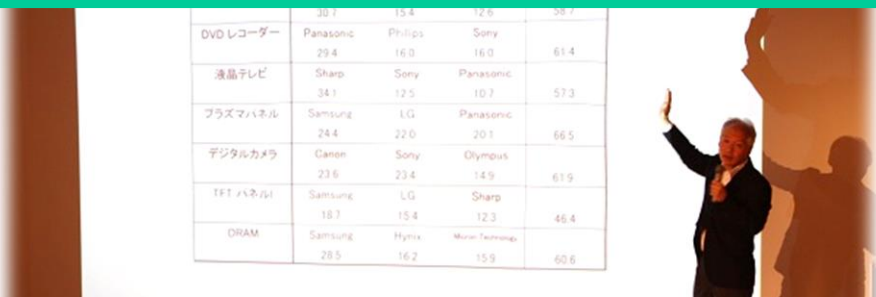
GL *abroad* ・国際交流でディスカッション  
海外研修の取組・自らの提案を考える

GL *in school* 学校設定科目の充実  
・21世紀を生きる・Current English・  
Global Health・グローバルリーダー論  
「健康」と「環境」, 「日本・徳島」を知る

パフォーマンステスト・TOEIC受検など

▼大阪大学松繁教授講演

「グローバル社会で求められる力とは？」



SG講座 *academic* 大学や *professional* 企業の講演でグローバルな課題を知る

論文作成の技  
発表の技 向上

○課題研究の英文化・英語でのプレゼンテーション



# Ⅲ SGHの主な成果

## ② 留学や海外勤務への関心

▼城東セッション(海外大学生や留学経験のある日本人学生との交流会)



GL *home* 国際機関との連携で、多様な考えを学び、キャリアデザインを世界へ



▲文部科学省UNESCO日本訪問

▼日亜化学工業・海外勤務体験談



SG講座 *professional* 企業の講演で  
グローバルスキル・CSR活動を知る

グローバル  
リーダーの育成

- ◆日本・徳島を知り、海外へ発信
- ・トビタテ！留学Japan
- ・ジュニア観光ガイド
- ・高校生外交官 等への参加



## ○今後の課題

---

○グローバルリーダーとしての生徒像を再確認しつつ、各取組の検証方法や、その成果の評価方法について検討する。

○「四国・徳島発」課題研究のテーマのさらなる深化をめざし、協働的学習を通して生徒の研究活動への意欲向上を図る。

○SGH指定終了後の取組について、現状の取組を「維持」しつつ、インドネシア研修も含めた国際交流を「いかに図るか」検討をする。



---

ご清聴ありがとうございました